

海辺の自然再生 高校生サミット

2024
inよこすか

司会・モデレーター
榎 太一
(同志社大学 助教)

同志社大学助教の
榎さんが、
12、14日の司会・
モデレーターを
務めます。



プログラム

12日
[土]

- 11:00 開会式
- 11:20 **基調講演**
古川恵太 (NPO法人海辺つくり研究会 理事長)
**人と自然のつきあい方を
自然科学・工学の視点から考えてみる
一人の力はどこまで自然に通用するのか**
- 12:00 休憩
- 13:00 **高校生の発表①②(2校)+質疑・コメント15分**
高校生の発表③④(2校)+質疑・コメント15分
- 14:20 休憩
- 14:30 **高校生の発表⑤⑥(2校)+質疑・コメント15分**
高校生の発表⑦⑧(2校)+質疑・コメント15分
- 15:50 講評
- 16:10 休憩
- 16:20 協力企業・団体の活動ご紹介
- 16:45 ポスターセッション
- 17:45 終了 ※終了後交流会(事前申込制、有料)

13日
[日]

- 9:00 2日目オープニング
- 9:10 **特別講演**
澁澤寿一(NPO法人共存の森ネットワーク 理事長)
**「人は自然の一部である」
一人と自然との共生とは**
- 9:50 休憩
- 10:00 **高校生の発表⑨⑩(2校)+質疑・コメント15分**
高校生の発表⑪⑫(2校)+質疑・コメント15分
高校生の発表⑬⑭(2校)+質疑・コメント15分
- 12:00 休憩
- 13:00 **高校生の発表⑮⑯(2校)+質疑・コメント15分**
高校生の発表⑰⑱(2校)+質疑・コメント15分
- 14:20 休憩
- 14:30 **高校生の発表⑲⑳(2校)+質疑・コメント15分**
- 15:10 講評
- 15:20 休憩
- 15:30 高校生円卓会議
- 16:30 協力企業・団体の活動ご紹介
- 17:00 終了

14日
[祝・月]

- 9:00 3日目オープニング
- 9:05 卒業生によるトークセッション
(中野光さん、亀井裕介さん、饗場空璃さん)
- 10:05 閉会式
- 10:10 終了

活動アドバイザー

古川 恵太 ふるかわ・けいた
NPO法人海辺つくり研究会 理事長
1963年生まれ。早稲田大学大学院建設工学科修了後、運輸省港湾技術研究所(現・国交省国土技術政策総合研究所)、海洋政策研究財団(現・笹川平和財団海洋政策研究所)を経て、2019年よりNPO法人海辺つくり研究会理事長。東京海洋大学・徳島大学客員教授。専門は沿岸生態系の保全・再生・創出、沿岸域総合管理、市民科学の推進等。

木村 尚 きむら・たかし
NPO法人海辺つくり研究会 理事・事務局長
1956年生まれ。東海大学海洋学部卒業。NPO法人海辺つくり研究会理事・事務局長の他、東京湾を子どもたちが泳げる豊かで美しい海にしたいと考え、東京湾の環境やまちづくりに関連する多数の市民活動にも協力している。主な著書は『都会の里海・東京湾』、『森里川海をつなぐ自然再生』(共著)等。現在、日本テレビ系列「ザ!鉄腕!DASH!!-DASH海岸-」にレギュラー出演中。

岩井 克巳 いわい・かつみ
NPO法人大阪湾沿岸環境創造研究センター専務理事
1965年生まれ。東海大学海洋学部卒業、(株)MACS代表取締役。阪南市を中心とした大阪府南部の泉州地域で、アマモ場再生を核とした海洋教育、カキ小屋を核とした浜の活力再生を指導・実践。NPO法人大阪湾沿岸環境創造研究センター専務理事の他、NPO法人環境教育技術振興会理事、大阪湾見守りネット理事、NPO法人海辺つくり研究会監事を務める。

高校生サミット発表団体

- [北海道・東北エリア]**
北海道霧多布高等学校/北海道小樽水産高等学校
山形県立加茂水産高等学校/宮城県水産高等学校
- [関東・中部エリア]**
千葉県立安房高等学校/東海大学付属浦安高等学校・中等部/神奈川県立海洋科学高等学校/愛知県立三谷水産高等学校
- [近畿・中国エリア]**
福井県立若狭高等学校/関西大学北陽高等学校/岡山学芸館高等学校/柳井学園高等学校
- [九州エリア]**
福岡工業大学附属城東高等学校/福岡県立山門高等学校/福岡県立新宮高等学校/熊本県立芦北高等学校/熊本県立天草高等学校/エコユースやつしろ/鹿児島県立鹿児島水産高等学校/鹿児島県立古仁屋高等学校

アマモは、日本各地の砂泥地に生息する海草の一種で、その群落によって形成されるアマモ場は「海のゆりかご」ともいわれるように、魚の産卵や稚魚の成育の場として重要でした。しかし、経済成長に伴う沿岸海域の開発などにより、アマモ場は急速に失われました。近年、各地でアマモ場の再生活動が行われるようになりましたが、今後もさらなる活動の推進が必要です。また、アマモ場に限らず、海辺の自然再生には藻場・干潟・サンゴ礁など、その地の生態系に応じて、自然・社会両方の側面からの多様な試みが必要です。「海辺の自然再生・高校生サミット」は、全国の高校生が、アマモ場の再生活動をはじめとする海辺の自然再生や生態系の保全に係る活動の成果を発表し、意見交換を行うものです。積極的な情報交換や交流により、これまでの研究を振り返り、新たな着想が生まれることを期待しています。

海辺の自然再生 高校生サミット

2024 inよこすか



オンライン
配信あり

活動
アドバイザー



木村 尚
NPO法人海辺つくり研究会
理事・事務局長



古川 恵太
NPO法人海辺つくり研究会
理事長



岩井 克巳
NPO法人大阪湾沿岸環境創造研究センター
専務理事

参加費無料

10月12日[土]~14日[祝・月] 会場 神奈川歯科大学 大講堂
〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地

主催 NPO法人海辺つくり研究会、NPO法人共存の森ネットワーク
協賛 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 マルハニチロ株式会社 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」株式会社商船三井 東洋建設株式会社 日本製鉄株式会社 一般財団法人みなと総合研究財団 日本テレビ放送網株式会社
後援 横須賀市

参加申し込みフォームよりお申し込みください。 <https://forms.gle/cKbTAXYekt6pvbsC6>
詳細やオンライン配信については、HPをご覧ください。 <https://amamo-summit.net/>



【お問合わせ】 海辺の自然再生・高校生サミット事務局 〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原301 (NPO法人共存の森ネットワーク内) TEL:03-6432-6580 FAX:03-6432-6590 e-mail:mori@kyouzon.org

この活動は、以下の協力企業・団体のご支援により実施します。
【協賛】 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 マルハニチロ株式会社 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」株式会社商船三井 東洋建設株式会社 日本製鉄株式会社 一般財団法人みなと総合研究財団 日本テレビ放送網株式会社 【後援】 横須賀市

北海道霧多布高等学校 北海道小樽水産高等学校



本校は北海道の東、釧路市よりもさらに東に位置しており、昆布をはじめとした漁業が盛んな浜中町にあります。アマモが身近な街で、2015年より外部講師の方をお招きし、アマモについての知識を深め、アマモ場のモニタリング活動を行ってきました。2015年から受け継いできたこの活動を後輩達へと受け継いでいきたいです。

本校は、北海道の日本海側にある小樽市で小樽港周辺のアマモ（スガモ）調査活動を行いました。ニシンの産卵に役立つ海藻なので、スガモ場の調査は、水産資源量の増減を知る目安になります。スガモ減少の原因を知るために、水槽飼育を行い、観察を続けています。海岸清掃も行い、持続的な水産業が行えるよう横断的な活動を模索しています。

山形県立 加茂水産高等学校



写真は、授業で山形県水産研究所の職員から藻場の重要性について学んでいるところで、共同で保全活動も行っています。並行して「水産生物部」の活動では、これまでにない藻場造成方法の研究を進めてきました。その方法は、特殊なコンクリートに海藻を付着させて苗とし、チェーンを用いて固定する方法です。今年度は苗の粗放培養の研究に取り組みました。

宮城県水産高等学校



本校は宮城県中部の石巻にあり、栽培実習場は太平洋と100m程の狭い水路で繋がった「万石浦」に面しています。近年はアマモの他に海藻類も肥料として活用してきましたが、昨年の高水温の影響か、多くのアマモ場でアマモが減少・消滅しています。アマモ場の確認と併せ、温暖化に伴う生物群や海岸線の状況確認など多方面からアプローチを行っています。

千葉県立 安房高等学校



2014年頃より千葉県館山市沖ノ島のアマモ場は年々減少し、2019年の台風により完全に消失してしまいました。そこで私たちはNPO法人海辺の鑑定団さんと共に、海と陸の繋がりを意識したアマモ場の再生を目指し、魚類調査を行い、アマモ栽培方法の確立などを試みています。今年度の海への移植は大失敗。今、次の作戦を考えています。

東海大学付属 浦安高等学校・中等部



本校は千葉県浦安市にあり、付属の中等部を併設した生徒1,600人のマンモス校です。スポーツが強いというイメージがありますが、文科系の部活動も地道に活動を行っています。私たちの主な活動は、生物の飼育や採集と、浦安市役所の水槽の掃除等です。また、東京湾付近のアサリ、ハゼの生態調査にも参加しています。

神奈川県立 海洋科学高等学校



本校地先の小田和湾のアマモ場再生を目指し、本校で育成している小田和湾産のアマモ株を植栽に使用しています。よって、植栽用株の確保も兼ね、株分けや親株より種を採取し、苗を育成しています。しかし種の発芽率の低さに課題がありました。そこで今回は底質に着目し、発芽率及び生長に適した底質条件を検討しました。

愛知県立 三谷水産高等学校



本校近くの西田川に設置した石倉カゴで、ニホンウナギの生態調査をしています。地域の小・中学生も一緒に活動しています。毎回、多くのウナギや水生生物が採捕され、身近な水辺環境に触れて、学べる機会になっています。標識した個体の成長や銀化変態も観察できました。これからは身近なウナギの生態を追いかけたいです。

北海道・東北 エリア

関東・中部 エリア



高校生サミット 発表団体の紹介

本年度は北海道から九州まで、全国 20 校が日頃の研究や活動成果を発表します。

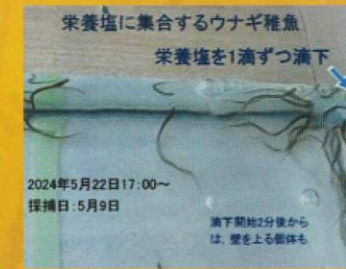
九州 エリア

福岡工業大学附属 城東高等学校



私たちは、博多湾内で生物調査や保全活動、そしてアマモを増やす活動を行っています。また昨年度は福岡で開催された高校生サミットを一緒に盛り上げるべく、その企画・運営の補助をしました。アマモを増やし、博多湾内が生き物の住処として生物多様性が維持できるように日々尽力しています。

福岡県立 山門高等学校



近年豪雨災害が頻発し河川構造への防災圧が強まったことで、天然ウナギの生息環境は悪化の一途をたどっています。昨年12月に13cm以下のニホンウナギも特定水産動植物に指定されましたが、特別採捕許可証をもつ山門高校では、ニホンウナギの稚魚が栄養塩類に強い集合性を持つことを発見しました。

近畿・中国 エリア

関西大学北陽高等学校



本年度は、海洋教育バイオアスクールプログラムに採択され、活動がスタートしました。ミッションは「海洋教育を楽しく学べる教材作り」です。海の問題を解決するには、みんなの力が必要です。悲しいことを、楽しく学べる教材を作成し、たくさんの人に海を好きになってもらいたいです。出前授業では、海に関する様々な声が飛び交っています。さあ、授業のはじまりはじまり～。

福井県立 若狭高等学校



こんにちは！私たちは課題研究の授業の中でアマモの再生活動に取り組んでいます。先輩方から引き継いだこの研究も今年でなんと20年目。地元牡蠣養殖業者の方や福井県立大学の先生方と協力しながら活動を進めています。小浜湾沿岸域一帯に繁茂していたアマモ場を復活させるために頑張るぞー！！

岡山学芸館高等学校



医進サイエンスコースでは、里海の聖地と呼ばれる岡山県備前市日生町で、2017年から海洋学習に取り組んでいます。1年次にアマモ場再生活動と聞き書きを、2年次に牡蠣の養殖体験や課題研究を行っています。今年度は、アマモ種子の長期保存方法の確立を目指して、真空処理や溶存酸素濃度操作による発芽能への影響を研究しています。

柳井学園高等学校



本校では、「魚を食べることで、海を愛する」という漁師さんの思いを受け止め、2008年から、授業の一環として地元の漁師さんと調理をする「お魚教室」を行っています。希望者には、放課後や休暇中を利用して、漁師さんと魚を調理する活動も継続しています。

福岡県立 新宮高等学校



本校から徒歩10分のところに新宮浜があり、私たち理科科では、3年前から新宮浜で研究活動を行っています。新宮浜は、粒子が細かい砂浜や松などの植生があります。生息する虫や、漂着する貝殻などの採取に加え、砂浜の測量を実施し、砂浜に関するデータを残すことで、自然保護に向けた取り組みに繋がっていければと日々活動しています。

熊本県立 芦北高等学校



私たちのアマモ場再生活動は、今年で22年目を迎えます。毎年、5～7月に種子散布、12～3月に苗の移植に取り組んでいます。長年の活動で本校独自の造成方法（ロープ式下種更新法、密植法など）を考案し、現在でも研究室内で様々な栽培技術の研究に取り組んでいます。今年からはコアモによる造成を始めています。

熊本県立 天草高等学校



本校は、SSH指定校として学校全体での探究活動に力を入れています。専門的な探究を行うASクラスも理系に設けられ、科学技術人材に必要な力を育成しています。また、科学部の活動も活発です。私たちアマモ班では、アマモ成長促進の為に肥料開発を行い、地域の方との連携によりアマモ場回復にむけた活動を行っています。

エコユースやつしろ



「エコユースやつしろ」は、2021年7月に「次世代のためにがんばる会」を母体として設立されました。浜辺の清掃活動や護岸の不法投棄視察などを行っています。2024年度からは「エコトーン干潟再生プロジェクト」を開始し、球磨川河口干潟で毎月実施する「いきもの調査」を通じて、市民の参加を促しながら八代海再生への啓発にも力を入れています。

鹿児島県立 鹿児島水産高等学校



「おとひめの結プロジェクト」として始まった南さつま市でのアマモ場再生も3年目となりました。今年度も効果の良い腐熟方法や、より良い発芽率の条件を探るべく研究しています。成果を具体的な数値で示すため、校内水槽で飼育しているアマモのCO2吸収量算出に挑戦するなど、鹿児島島の海を豊かにするべく、産官学が連携・協働して取り組んでいます。

鹿児島県立 古仁屋高等学校



古仁屋高等学校まちづくり研究所は、地域の課題についての探究活動を行っています。昨年度、瀬戸内町役場の方からお声がけいただき、マングローブの植栽活動のお手伝いを開始しました。今年度より植栽環境のモニタリング調査を開始し、マングローブの生態系に関する研究を地域の方と連携して行っています。